

# 巻 頭 言

院長 竹内 裕美

これまでのSARSなどの感染症の経験から、1年もたてばコロナ禍も収まるだろうと思っていました。

しかし、予想に反して流行を繰り返すほど患者数は増加し、令和3年の秋になっても終息には至っていません。コロナ感染者の増加に加え、ワクチン接種やメディカルチェックセンターなどの業務が増えたために、全ての職種で日常業務をこなすのが限界に達しています。

このような状況のなか、鳥取赤十字病院医学雑誌30巻を刊行することができたことは、職員の医学に対する真摯な取り組みの結果と考えます。学会誌などの専門領域に特化した雑誌とは異なり、様々な職種・領域の様々な内容の論文が掲載されていることが本誌の特徴です。本誌を読んでもいただければ、本院の医療への取り組みの現況を知っていただくことができますので、御高覧賜れば幸いです。

2021年11月吉日